

- ・東京都教育委員会目標・本校の教育目標
- ・本校のグランドデザイン・目指す学校

＜スクール・ミッション＞

個人の自由と尊厳を重んじ、自発的、自主的精神に富み、社会連帯性の上によく協調し得る人材や、創造的精神に富み、勤労を尊び、産業と文化の発展に貢献する人材の育成を教育目標として、基本的生活習慣・規範意識の定着、基本的なビジネススキルの習得等を通じて、豊かな人間性と社会に求められる人材を育成します。

**めざせ！葛商ブランドの確立** ～ 教育内容の充実と進路実績の向上 ～  
**【本校のミッション】地域貢献NO.1 地域と連携した地元密着型のビジネス教育の推進**  
 ～ 都立商業高校として、地域に信頼され目標とされる学校の実現 ～

観点	中期的目標と方策	今年度の目標と方策（1）教育活動の目標と方策	今年度の目標と方策（2）重点目標と方策
学習指導	①主体的・対話的で深い学びを意識した良質な授業を工夫し、生徒が自ら学ぶ姿勢を育て、基礎学力の定着と伸長を図る。 ②生徒の創造力を育み、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を常に行い思考力・判断力・表現力等を育成する。 ③教科マネジメントを確立し、3年間を見通した教科指導の在り方、組織的な補講を含めた指導体制の強化を図る。 ④ビジネス教育を推進するとともに検定資格の取得率の向上を図る。 ⑤家庭における学習時間の拡充を図る。 ⑥持続可能な社会づくりに向けた教育（SDGs）を推進する。 ⑦ICTを活用するとともに、Society 5.0の社会に対応するための教育に取り組む。 ⑧定期考査採点・分析システム（リアテンド）を全教員が利用し、各生徒のスタディログを残し、授業改善につなげていく。 ⑨「オンライン授業デー」の取り組みを通し、生徒の学びが止まらぬよう、全教員のスキルをあげていく。	(ア)新学習指導要領に対応した教科指導上の課題について横断的に検討し、教育活動の改善や新規事業の提案等を行う。 (イ)すべての教科で主体的・対話的な深い学びの実現に向け努力するとともに、討論や発表を通じて言語活動の充実を図る。 (ウ)読書の時間の実施や推薦図書を選定等、図書館の活性化を図り、読書活動を推進する。また、教材や調査研究の素材として、「新聞」を積極的に活用する。 (エ) Microsoft Teams を活用したオンライン授業の実施に向けた授業計画・指導計画・教材開発について研究を進める。また、「オンライン授業デー」の取り組みを通し、生徒の学びが止まらぬよう、全教員のスキルをあげていく。 (オ)定期考査採点・分析システム（リアテンド）を全教員が活用できるスキルを身に付ける。 (カ)1年次においては簿記、情報処理、珠算・電卓、ビジネス文書、商業経済検定の3級取得100%を目指し、2年次からは生徒の興味・関心、進路希望等に応じて、さらに各種1級の高度な資格取得を実現する。 (キ)地域の商店街や企業など業界との連携や外部人材の活用により、研究発表、商品開発、空き店舗を利用した店舗運営、起業精神の育成などビジネス教育を推進する。	(ア) 主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善の推進を継続するとともにルーブリックを用いた評価を活用して指導と評価の一体化を図る。 (イ) 学習成績に関して、観点別評価についてBのラインは50%、Aのラインは80%とし、ペーパーテストやその他の成果物、授業態度（アクティブ・ラーニングへの取り組み）、出欠等を考慮する。検定試験を実施する科目については、可否に関わらずその結果も要素として考慮する。 (ウ) 検定資格の取得につながる教科・科目については、生徒の能力に応じた適正なレベルを受験させ、組織的計画的な指導によって合格率の向上を図る。 (エ) 英語については、JET・ALTとのTTでは、オールイングリッシュを意識した授業を目指して取り組む。習熟度別授業・少人数授業、多読、英紙新聞の活用を図るとともに、英語検定を活用して英語力の向上を図る。 (オ) 教科・経路の枠を超えた「授業相互参観」年3回と研究授業を実施し、授業力の向上と良質な授業の工夫および教材作成に取り組む。 (カ) 教科指導・特別活動において、調査・研究活動で図書館を積極的に活用することや「読書の時間」を設定することにより、不読者率を減少させる。また、教材や調査研究の素材として「新聞」を積極的に活用する。  <b>【数値目標】</b> ① 基礎的検定(3級合格率(簿記・情報処理・電卓・英文・商経等)) 各 80%以上 ② 簿記検定1級合格率 40%以上 ③ 情報処理検定1級合格率 40%以上 ④ 未読者率 20%以下
生活指導・健康づくり	①生命尊重・他人を思いやることの育成に取り組み、安心・安全な学校生活を確保し、いじめ・暴力行為・自殺等の未然防止に努める。 ②規範意識の醸成を図り、基本的生活習慣を確立させ、ボランティア精神の醸成と社会人として必要な資質・能力を育成する。 ③全教職員で交通安全指導・遅刻指導・身だしなみ・挨拶・マナー・情報モラル指導等の徹底を図る。 ④SCや外部機関との連携を強化し、教育相談体制と支援内容および特別支援教育の理解と啓発を図る。 ⑤生徒の健康状況の把握に努め、保健指導の充実と健康管理の徹底を図る。 ⑥生徒の健康づくり、体力向上、安全管理、環境美化を徹底する。	(ク)服装・頭髪・授業規律・挨拶・遅刻・マナー指導を通して、社会人として必要な規範意識を育てるとともに、道徳教育の充実を図る。 (ケ)日頃から安全教育プログラムを活用するとともに、セーフティ教室等において交通安全指導、薬物乱用防止教育、生徒の健全育成を推進する。 (コ)生徒の健康増進や体力向上を図るとともに、積極的に運動やスポーツに親しみ、心身の調適的な育成を推進する。 (ク) いじめの未然防止に努め、特にSNSの健全な利用について通年で注意喚起する。 (シ)「生命尊重」に関する教育を推進し、講演会、授業、ホームルーム等において、通年で取り組む。 (ス)養護教諭、SC、学校医、外部専門機関等との連携を深め、教育相談、特別支援教育に関する校内組織を活性化し、一人ひとりの生徒に対応した支援の充実を図る。 (セ)生徒の情報交換会を年3回実施し、全教員が生徒の状況について共通理解を図る。	(キ)全教職員の共通理解のもと、基本的生活習慣、身だしなみ、授業規律、自転車通学マナー、SNSの使い方等の規範意識のさらなる定着を図る。 (ク)各学期末の特別支援委員会で情報交換会を実施し、気になる生徒に関する情報を共有することで統一した指導に取り組む。 (ケ)青少年赤十字（JRC）を活用し、ボランティア精神の醸成と活動を推進する。 (コ)様々な機会を通じ、組織的にSDGsに関わる取り組みを推進し、生徒の意識啓発と社会参加を推進する。 (ク)地域の商店街や町会、中学校、保育園、児童館等との地域連携活動を推進し、地域貢献、人材育成に取り組む。 (シ)オリンピック・パラリンピック大会後のレガシーの教育として、異文化交流に取り組む。  <b>【数値目標】</b> ⑤ 遅刻回数 1日平均10人以内 ⑥ 特別支援教育に関する委員会の開催回数 3回以上 ⑦ 自転車による交通事故件数 3件以内
進路指導	①3年間を見通した組織的・計画的なキャリア教育のシステムを構築する。 ②大学入試改革に対応した商業高校からの大学受験指導の改善を図る。 ③多様な進学希望に対応した進学指導マネジメント・システムを構築する。 ④生徒の入学時から卒業までの成績推移等の個別データを全教員で共有し、担任、教科担任、部活動顧問など、それぞれの関わりの中できめ細やかな丁寧な指導を行う。	(リ)生徒の多様な進路希望に対応する組織体制を確立し、1年次から計画的にキャリア教育を推進する。 (タ)2年次のインターンシップについて、令和5年度は夏季に希望者が実施し、早期に職業観を醸成するため、今後は1年次の2学期に全員が実施するよう体制を組み直す。 (チ)大学入試に対応した指導体制を確立し、大学短大、公務員希望者への指導を強化する。	(ス)外部のオンライン個別学習で、基礎学力の向上を図り、就職・進学対策に活用する。 (セ)全教職員による企業見学・会社訪問を実施し、新規就職先やインターンシップ受入先の開拓に取り組む。 (リ)学校全体で、3年生の進路実現を図る。 (タ)中学から引き継いだキャリア・パスポートについて適正に活用する。  <b>【数値目標】</b> ⑧ 進路決定率 100% ⑨ 就職試験1社目での合格率 80%以上 ⑩ 私立大学現役合格者数 20名以上
特別活動	①持続可能な社会づくりに向けた教育（SDGs）を推進する。 ②生徒が主体的な学校行事や部活動の一層の活性化を図り、育成する。 ③地域貢献活動の充実を図り、生徒の成長を促すとともに地域に根差した学校づくりを推進する。 ④平和教育・環境教育を推進する。 ⑤運動部・文化部への加入率をあげ、部活動や委員会活動に積極的に参加させ、学校への帰属意識を高める。 ⑥教科以外にも読書活動を推進する。 ⑦次世代リーダー育成道場や東京英語村等を活用し、グローバル人材の育成を図る。	(ニ)地域貢献活動の一環として、ふれあい月間推進事業、東京都教育の日の取り組みの拡充を図る。 (テ)青少年赤十字（JRC）加盟校として、ボランティア活動への参加を促し、生徒に自己有用感を持たせ、社会貢献意識の向上を図る。 (ト)「総合的な探究の時間」等を自己の在り方・生き方と関連づけて実施し、キャリア教育、道徳教育、平和教育、環境教育に関する知識を身に付けさせ、社会貢献活動の自覚を深めるとともに、生徒の「生きる力」を育む。	(チ)1年「ビジネス基礎」、2年「ビジネス・アイデア」について、企業連携（商業教育コンソーシアム東京）や高大連携（千葉商科大学商経学部）および世帯連携などの実践的な学習等によりビジネス教育の充実を図る。 (ツ)各種検定・大会・コンテスト等への応募・参加を促し、生徒の潜在能力の発見・開花に結び付け自信と誇りを持たせる。（例）国税庁「税に関する高校生の作文」、都産振「作文コンクール」、日本政策金融公庫「高校生ビジネスプラン・グランプリ」、日本経済新聞社「日経ストックリーグ」、MOS検定、ITパスポート試験、FP技能検定など。 (テ)店舗運営実習（京成小岩駅前）や商品開発、都立足立特別支援学校との連携を推進し、ビジネスに関する協働学習と生徒の相互理解に取り組む。 (ト)英語科と商業科が連携して、EBPC(イグ リック・ビ ジネス アワード)入賞を目指す。  <b>【数値目標】</b> ① 部活動加入率（全校生徒） 75%以上 ② 生徒の学校満足度 75%以上 ③ 地域貢献活動 年間15回以上 ④ 店舗運営開店回数 年間10回以上
募集広報活動	①本校のビジネス教育について、WEB等の情報発信を活性化させ、中学生、保護者、中学校、学習塾等の関係者の理解を深め、本校を第一志望とする応募者の増加を図る。 ②学校説明会・学校見学会の内容を工夫するとともに、効果的な中学校訪問、学習塾対策等を実施する。	(カ)ホームページの随時更新に努め、積極的に本校の情報発信を行う。 (キ)授業公開日、学校説明会、中学校・学習塾訪問等の実施方法を工夫し、中学生・保護者・地域等に対して効果的な広報活動を全教職員で行う。	(カ)マスコミの活用、学習塾および中学校の強化対策地区を設定するなど、効果的に組織的な広報・募集活動に全教職員で取り組む。  <b>【数値目標】</b> ⑤ 入選中進対倍率 1.00倍以上 ⑥ 推薦応募倍率 1.30倍以上 ⑦ 学力検査応募倍率 1.10倍以上 ⑧ ホームページ更新回数 100回以上
学校経営・組織体制	①カリキュラム・マネジメントを確立し、学習指導要領に対応した教育課程の検討を継続する。 ②働き方改革、ライフ・ワーク・バランスの推進に積極的に取り組む。 ③高い倫理観をもち法規法令の遵守ができる教職員集団を目指す。 ④経営企画室からは行政系職員から見た教育活動等への提言を行う ⑤自律経営推進予算・学校徴収金会計について適正な計画を立案し、計画的・効率的な予算執行と会計処理を行う。 ⑥施設設備の定期的な安全点検・安全管理及び迅速な修繕の徹底を図る。	(又)ビジネス科5年間の検証を行い、カリキュラム・マネジメント、グランドデザインを点検、改善を加えながら、教育課程の編成・構築を随時行う。 (ネ)計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。 (ノ)職務事故ゼロを達成し、生徒・保護者の信頼を確立する。特に体罰や不適切な指導を絶対に生じさせない。 (ハ)経営企画室と一体となった体制づくりを進め、来校者等への丁寧な接遇、危機対応力の向上を図る。 (ヒ)学効加入のPTA一斉メールシステムを最大限に活用し、保護者に必ず連絡が届くようにする。	(コ)業務分担の適正化、会議の時間短縮など業務の効率化を図り、時間外勤務の軽減に取り組む。教職員の在校時間を縮減する。 (カ)職務事故・個人情報紛失事故・体罰や不適切な指導の根絶に向けた校内研修を学期に1回以上実施し、職務事故をゼロにする。 (ネ)自律経営推進予算を備品については、100%執行し、センター執行率を60%以上とする。 (ノ)節電等の省エネルギー・資源リサイクルを推進する。 (ハ)学効加入のPTA一斉メールシステムへの登録を生徒、保護者とも100%とする。  <b>【数値目標】</b> ⑨ 一般需用費のセンター執行割合(%) 60%以上

\* 本校の学校経営や、生徒に役立つ方策等については、年度途中でも推進する。

\* 表中の丸数字は順序性や関連性を表していない。